

1. 事業概要と円借款による協力



サイト地図：タイ全域



スラタニ県果樹農家インタビュー風景

(1) 背景：

タイ国経済において、工業化が進展するなかで農業の GDP に占める比重は 1981 年 21.4% から、1987 年には 16.0% へと相対的に減少したものの、農業人口はタイ国民の約 64% を占め、農業生産物の輸出量もタイ全体の輸出額の約 30% を占めるなど、農業分野はなお重要であった。農民の所得水準は非農業従事者と較べて極めて低く（約 11%）、かつその差は広がりつつあった。また農民の中でも地域による格差が大きかった。

第 6 次経済社会開発 5 カ年計画（1987 年度～1991 年度）は、第 5 次 5 カ年計画まで目指してきた従来の主要農作物を中心とした生産拡大と米価格維持政策から、農作物の多様化・換作物への転換、品質向上、生産コストの低減など輸出振興政策への転換等を目指す政策を目指すものであった。さらにタイの将来において、農業を基盤とした産業（アグロ・ベイスト・インダストリー）国家と位置付け、農産品および関連加工産業の育成強化を図ることとしており、農民・農村住民の貧困と地域間格差を解消するために設立された政府系農業金融機関である農業・農業協同組合銀行（BAAC）による転換資金の低利融資により、これを支援することになった。

また、タイ南部では 1988 年 11 月に稀に見る大規模な洪水に見舞われ（被災農家約 25 万世帯）、この洪水被害からの復興のため、資金面での救済措置が必要とされ農業面での救済措置の一環として、BAAC もその一端を担うこととなった。

農民・農村住民の貧困と地域間格差を解消するための政府系農業金融機関としての BAAC の役割は大きい。

(2) 目的：

タイ国内外の農作物市場の構造変化に対応した作物生産の多様化促進を通じ、タイ

国政府の推進している地方農民の所得向上に資すると共に、1988年11月に発生した南部タイ地域農民の洪水被害からの復興促進を目的とするものである。

(3) 事業範囲：

円借款対象は、作物多様化プログラムおよび南タイ洪水地域リハビリプログラムに基づくサブ・プロジェクトに対し BAAC が融資する資金（サブ・ローン）を支援するために、BAAC に資金を供与し、また輸出志向農作物の生産とマーケティングを推進するためのコンサルティング・サービスに関する資金を供与するものである。

サブ・ローンの条件は以下のとおりである。

- (1) 対象となる農民： 年間所得 50,000 バーツ以下の個人農民（所得下限なし）
- (2) 貸付額： 一件あたり 10,000 バーツ～5,000,000 バーツ
- (3) 貸付対象額： サブ・プロジェクト所要資金の 80%以内
- (4) 貸付条件： 金利 年 9.0%、期間 20 年以内（据置き 12 年以内）

* 東北タイに於けるゴム栽培農民向けサブ・ローンは金利据置き 8 年以内（据置き金利は元化（元本に加算）される）

コンサルティング・サービスの内容は次のとおりである。

- ・サブ・ローン（BAAC ローン（ ））の実施にかかわる助言
- ・国内外の生産とマーケティングにかかわる助言
- ・BAAC の Credit Officer の育成支援
- ・プロGRESS・レポートの作成等

(4) 借入人/実施機関：

農業・農業協同組合銀行(BAAC :The Bank for Agriculture and Agricultural Cooperatives)

(5) 借款契約概要：

円借款承諾額／実行額	5,000 百万円 / 5,000 百万円
交換公文締結／借款契約調印	1990 年 2 月 / 1990 年 2 月
借款契約条件	金利 2.7 %、返済 30 年（うち据置 10 年）、一般アンタイド（但し、コンサルタントは部分アンタイド）
貸付完了	1993 年 7 月

2 . 評価結果

(1) 計画の妥当性：

本事業は第 6 次経済社会開発計画（1987 年度～1991 年度）に沿って実施されたもので、農作物生産の多様化、アグロ・ベイスト・インダストリー育成、地域間格差是正等を標榜しており、本件はその目標に沿って、作物多様化を通して農家所得収入の多様化をもたらさんとするツーステップローンで、その主旨は妥当であると認められる。

(2) 実施の効率性：

融資額および期間

融資計画は、作物多様化 3,442 百万円、南部洪水被害対策 1,500 百万円であり、サブ・ローン・プログラム合計 4,942 百万円、コンサルティング・サービス 58 百万円となっていた。これに対し実績はサブ・ローン 4,955 百万円、コンサルティング・サービス 45 百万円とほぼ計画どおり実施された。

計画上の貸付実行期限は貸付契約発効日から 5 年間（1990/5～1995/5）を予定していたが、資金ニーズは高く、実際の貸付は当初より想定されていた（表 1）とおり、BAAC からエンド・ユーザーへのサブ・ローンは 1990/4～1992/12 の間に行われ、円借款による融資は 1990/5～1993/7 迄の間に行われた（表 2）。

表 1：融資計画額

暦年(1-12月)	1990	1991	1992	1993	1994	1995	合計
円借款(百万円)	2,950	1,067	983	-	-	-	5,000.0

表 2：融資実績額（BAAC の会計年度 4～3 月）

F/Y (4-3月)	1990	1991	1992	1993	合計
円借款(百万円)(注1)	4,049.1	887.9	44.4	18.5	5,000.0
BAAC(百万パーツ)(注2)	809.8	117.3	8.5	-	935.6

注：1) コンサルティング分 45 百万円を含む。

2) 作物多様化と南部洪水被害対策へのサブ・ローン供与分。

3) 換算レートは 1 パーツ = 平均 5.34 円

業種別・地域別融資実績

農民への地域別・プログラム別の融資実績は表 3 のとおりで、935.6 百万パーツが、2 年半の期間に 15,693 件のサブ・プロジェクトに融資された。一件当たりの融資額は平均 59,430.7 パーツとなっている。作物多様化融資は北部・東北部地域に集中し、洪水復興支援は南部と西部に集中（サブ・ローンの 77.5%）している。

作物別融資実績は表 4 に示すとおりである。漁業・養蚕への融資は BAAC 融資全体の中では増加しているが、円借款分では伸びなかった。その原因として BAAC では以下のように分析している。

漁業は、貧困漁民を対象にしていることや融資規模に制約があるため融資申請件数が少なかったこと、環境保護の面からマングローブ伐採が制限されるようになったため、養魚池の新設に対して、BAAC が融資を抑制したこと等による。また 養蚕業への融資が伸びなかった原因は、桑の栽培が適切に進まなかったこと、繭の質が悪く糸が短かったため競争力が低かったこと、BAAC 融資担当窓口が農民に対し積極的な働きかけが出来ないうちに融資枠を消化してしまったこと等のためである。

表3：地域別サブ・ローン実績（ は作物多様化、 は洪水復興支援）

地域名	サブプロジェクト件数		金額		平均融資額 (パーツ)
	件数	構成比 (%)	金額(百万パーツ)	構成比(%)	
北部	3,540	22.6	183.0	19.6	51,702.1
	0	0	0	0	0
合計	3,540	22.6	183.0	19.6	51,702.1
東北部	6,070	38.7	205.3	22.0	33,821.5
	0	0	0	0	0
合計	6,070	38.7	205.3	22.0	33,821.5
中部・東部	1,514	9.6	179.3	19.2	118,452.4
	0	0	0	0	0
合計	1,514	9.6	179.3	19.2	118,452.4
西部・南部	667	4.2	82.0	8.8	122,877.7
	3,902	24.9	283.0	30.3	72,534.0
合計	4,569	29.1	365.0	39.1	79,883.3
全国	11,791	75.1	649.6	69.7	55,094.4
	3,902	24.9	283.0	30.3	72,534.0
合計	15,693	100.0	932.6	100.0	59,430.7

出所：BAAC 資料

表4：対象作物別融資内訳

単位：百万パーツ

作物別	作物多様化プログラム	南タイ洪水リハビリ プログラム	合計
果樹・木本作物	87.7(13.5)	124.6(44.0)	212.2(22.8)
漁業	24.9(3.8)	42.9(15.2)	67.9(7.3)
家畜・酪農・家禽	279.9(43.1)	36.5(12.9)	316.4(33.9)
飼料作物・野菜	240.6(37.0)	78.9(27.9)	319.6(34.3)
養蚕	16.5(2.6)	-	16.5(1.7)
合計	649.7(100.0)	282.9(100.0)	932.6(100.0)

出所：BAAC 資料

注：()内は構成比%

(3) 効果：

直接的効果（農家所得増加）

本件は個々の農民の生産活動を直接促進するものであり、直接的効果としては、主として対象農家の所得増加があげられる。

BAAC が行った Evaluation Study によると、本件融資対象の農家一戸当たり平均年収は融資前と融資後を比較すると（表5参照）チェンライでは、28,741 パーツだったものが、47,414 パーツへと1.6倍、カンペンベットでは65,451 パーツから97,363 パーツ

へ 1.5 倍、コンケンでは 32,279.3 パーツだったものが、82,279.3 パーツへと 2.5 倍になっている。農家の所得の増加・生活の改善などが実現しつつあるとみられる。これはこの間の物価上昇率で割引いてもそれぞれチェンライ 1.4 倍、カンペンペット 1.3 倍、コンケン 2.2 倍となり、本事業の資金が農家収入の増大に寄与したことが察せられる。

表 5：農家一戸当りの平均年収実績

単位：パーツ

地域別	融資前：1990 年	融資後：1993 年 注	/
チェンライ	28,740.6	47,414.0 (41,671.6)	1.6 (1.4)
カンペンペット	65,450.8	97,362.6 (85,570.9)	1.5 (1.3)
コンケン	32,279.3	82,279.9 (72,314.4)	2.5 (2.2)

出所：BAAC 資料

注：()内数値は International Financial Statistics Yearbook (IMF,1999) の CPI を参考に 90 年価格を基準に修正したもの。

外貨獲得効果

間接的効果としては、アプレイザル時には輸出による外貨獲得・輸入代替による外貨節約、農業金融の拡充、農村の活性化を見込んでいた。タイの輸出全体に占める農業のシェアは減少しているが輸出額は増加しており、また農産物の輸出入収支は黒字が増えており、間接的ではあるが、本事業もこれら効果発現の一助を担っていると考えられる。

洪水被害の復興

本事業は 1988 年 11 月の大洪水被害（合計 10 県。農地 280 万ライ（4,480km²）、養魚池 9 万ライ被害、家畜 50 万頭死亡。復興見積り予算 73 億パーツ）に対する救済手段の一つである¹。洪水被害は南部地域が中心であるが、一部は西部地域にも及んでいる。本件 BAAC 融資の 30.3%が洪水被害復興投資に当てられ、その 95%が南部地域であった。南部では主として果樹園復興とそのための農地造成に利用され、西部では主として畜産業の復旧用に当てられた。

(4) インパクト：

マーケティングの整備

農業生産面では一応の成果を収めつつあり、BAAC は、今後の農業近代化の焦点はマーケティングの整備にあるとの認識により、本件ではコンサルティング・サービスを導入し調査を行っている。同時に、BAAC は、農業関連マーケティング融資が出来

¹：災害復興対策として 返済期限の延長、金利引下げ、融資枠の拡大等による条件緩和、新規復興投資資金融資（予算 15 億パーツのうち円借款分は 283 百万パーツ）の二つが予定されていた。

るように 1992 年に BAAC 法を改正した。BAAC は全国に農産物販売組合 (Agricultural Marketing Cooperatives (AMCs)) の設立を促進し、AMCs と BAAC 各支店との協力により、農産物のマーケティング促進を支援するシステムを構築した。さらに、生産者・農協と消費地との連携を高め、市場機能を強化するため、BAAC は民間との合弁で、1992 年に Thai Agri-Business Co.,Ltd.(TABCO)を設立し、1994 年には Thai Agro Exchange Co. Ltd. (TAECO) を設立した。TABCO、TAECO とも農産物を消費地へ輸送し主要都市で卸売り市場を形成し、農民に市場の情報を伝えることなどを目的にしたが、TABCO はバンコク以外の主要都市をも対象にしたが、機熟さず事業としてはうまくいかず、休眠企業化した。これに代わる TAECO は、東京の築地市場・大田市場を参考に、バンコクを中心とした大規模・近代的な卸売り市場形成を目指し、TAECO 用地内に農産物中央市場の機能 (集荷・輸送・冷凍・保存) を整備しつつある。また農村と市場の連係を目指す BAAC は、市場内に BAAC のオフィスを設置し、農村に提供できる情報を整理しつつ、野菜・果実・魚の卸・小売・輸出の機能を強化してきている。

環境・社会インパクト

BAAC は、農作物生産案件・畜産案件・その他案件の 3 種類について環境影響チェック基準を有し、案件審査のとき、土壌・土質・水質汚染、森林破壊その他自然への悪影響等環境への影響が予想される場合は融資を行わないことにしている。本件融資対象になっている漁業セクターへの融資が少ないのはマングローブ林保全に留意した結果でもある。従って、本件融資による環境面での負のインパクトは少ないものと思われる。

(5) 持続性・自立発展性：

実施機関

(a) 実施体制の現状

BAAC は全国 76 県のうち 72 県に県支店 (Provincial Office) をもち、その下に 587 郡支店 (District Branch)、その下に 887 の現地事務所 (Field Office) を設置し、BAAC への登録農家戸数約 350 万戸を擁し、農民・農村を対象とする制度金融機関として幅広いニーズに対応している。1999 年末の職員数は支店で 11,570 人、本店で 1,512 人、合計 13,082 人となっている。支店・現地事務所網はタイの官民の全金融機関の中で最大のネットワークを構成しており、他の銀行に無い金融支援体制を整備している。

(b) 運営・維持管理

これまで BAAC は融資拡大のほか審査能力の向上、債務管理など、銀行としての健全性を維持することに傾注してきており、実施能力という点では問題は無いと思われる。BAAC は継続的な経験のなかで、プログラム形成能力、審査能力、債権管理能力を高め、その実施能力は信頼できると考えられる。

- 審査体制

農民からの融資申請は全国 887 ヶ所の現地事務所 (Field Office) で受け付け、審査は融資申請規模が 100 万バーツ以下のものは 587 ヶ所の郡支店 (District Branch)

で行い、200 万パーツ以下の場合は県支店(Provincial Office)で実施される。審査の方法は融資額が 50 万パーツ未満か以上か、100 万パーツ以上かによって変わり、また短期資金か長期資金かにより異なる。短期で 50 万パーツ以下はキャッシュ・フローで返済能力のみを分析し、長期のものはプロジェクト性（設備投資の内容・効果等）および収益性等も分析する。200 万パーツ以上は本店審査を受ける。

- 債権管理（延滞状況）

債権管理は各支店・現地事務所で行い、債権管理体制は整備されているが、個人貧困層農民に対する融資と洪水被害救済融資を対象とする本件の延滞債権は、経済危機の影響を受けて 1997 年以降相当の増加が見られる。返済遅延した農民に対しては、文書による督促状は支店では出していないものの、各 Field Office の融資担当者が農民の相談にのって返済方法を協議している。

BAAC によると、本事業及び円借款事業のみに関する延滞残高・件数は把握できていない。BAAC の全元本残高に対する全融資分の延滞額の比率は、1995～1999 年平均は 11.92%であったが、1999 年は 16.36%と増加している。また、個人農家向け貸付の残高に占める延滞率は、表 6 のとおり経済危機前の 1996 年は 5.7%であったが経済危機後漸増しつつあり、1998 年は 11.9%、1999 年は 12.1%になった。延滞債権は短期貸付分が多く、本事業分が含まれる長期貸付分は全体の 24.2%である。しかし、長期貸付分については 1998、99 年に急増している。

表 6：個人農民向け貸付延滞状況（元本）

単位：百万パーツ

	1995	1996	1997	1998	1999
短期貸付分	4,179	4,531	7,060	10,948	10,730
中期貸付分	2,417	2,841	4,450	7,077	8,553
長期貸付分	1,423	1,860	2,876	4,668	6,150
負債整理資金	55	102	152	218	276
合計 (A)	8,074	9,334	14,538	22,911	25,709
貸付残高 (B)	127,243	162,640	177,545	192,823	212,797
(A)/(B)(%)	6.3	5.7	8.2	11.9	12.1

出所：BAAC 年報（1999 年度）

注：延滞額 = 返済期限到来元本 - 返済額。この表ではリスケジュールされた債権等は含まず。年度は会計年度。

(b) リボルビング・ファンドの状況

BAAC は本件サブ・ローンについて、従来の BAAC ローン同様、特別勘定を設置し、返済元本と必要経費分を控除した後の利息収入を振込み、他の資金と区分して管理することになっている。リボルビング・ファンドとして本件のサブ・ローンと同一条件で回転使用することを認め、その内容を年一回国際協力銀行(以下「本行」)へ報告することになっている。

今回の調査において、リボルビング・ファンドの報告書を徴求したが、本件は古い案件であり、リボルビング・ファンドの利用は進みつつあるはずであるが、データの

整理は進んでいない。現時点では経済危機後の融資条件変更もあって、まだ据置期間のものがあ、データ整備が難しいとの事であった。

主要計画 / 実績比較

項目	計画	実績
① 事業範囲 ・作物多様化プログラム (全国) ・南タイ洪水被災地域リ ハビリ(南部9県) ・コンサルティング・サ ービス	(サブ・ローン)(注1) ・対象品目は果樹/木本作 物、漁業、家畜/酪農/家 禽、飼料作物/野菜、養 蚕。 ・対象品目の指定(注2,3)。 ・コンサルティング・サー ビス(注4)	同左
② 融資期間	1990/2~1995/5	1990/5~1993/7
③ 事業費		
外貨	5,000百万円	5,000百万円
内貨	1,250百万円	1,250百万円
合計	6,250百万円	6,250百万円
うち円借款分	5,000百万円	5,000百万円
換算レート	1バーツ=5.6円 (1988/8)	1バーツ=5.0円 (1992/12)

(注1) サブ・ローンの条件

- (1) 対象となる農民： 一戸当たり年間所得 50,000 バーツ以下の個人農民(所得下限なし)
- (2) 貸付額： 一件あたり 10,000 バーツ~5,000,000 バーツ
- (3) 貸付対象額： サブ・プロジェクト所要資金の 80%以内
- (4) 貸付条件： 金利 年 9.0%、期間 20 年以内(据置き 12 年以内)

* 東北タイに於けるゴム栽培農民向けサブ・ローンは金利据置き 8 年以内(据置き金利は元化される)

担保： 不動産担保、または連帯保証(土地保有者であれば 2 名、
そうでない場合 5 名以上のグループ) 掛け目 70%

特別勘定：特別勘定を設置し、他の資金勘定とは区別して使用する。特別勘定の資金は本件のサブ・ローンと同一条件で回転使用される。

(注2) サブ・ローン対象品目

(ア) 作物多様化プログラム

果樹/木本作物： マンゴー、タマリンド、ロンガン、ライチー、カシューナッツ、
コーヒー、ゴム、ココナッツ、茶、オイルパーム、他

b) 漁業： エビ、その他海洋魚および内水面魚

c) 家畜/酪農/家禽： 乳牛、畜牛、家禽類、他

d) 飼料作物/野菜： メイズ、ソルガム、トマト、アスパラガス、玉ねぎ、その他野菜

e) 養蚕

(イ) 南タイ洪水リハビリ・・・対象品目の指定なし

(注3) サブ・ローンの調達品目

- ・農地造成・改良(トラクター借料等)
- ・農・畜・漁業機械(トラクター、ポンプ、エンジン、噴霧器、脱穀機、搾乳機、船)
- ・運搬器具(農用トラック、トレーラー)

- ・農用建物（牛・豚舎・蚕舎等）
- ・その他のインフラ（給水設備、養殖施設等）
- * 土地購入資金は BAAC 自己資金分から 50,000 パーツを上限で融資していたが、本行では
借入対象外としているため、BAAC でも 1997 年から融資しないことにした

（注 4）コンサルティング・サービスの実施内容

- ・契約名 “ Promotion of Crop Diversification among Small Scale Farmers and
Southern Flood Project”
- ・契約日 1992 年 3 月 31 日
- ・契約額 49,706 千円（うち円借款分は 45 百万円）
- ・契約内容・・・ 輸出志向農作物の生産とマーケティング調査
農民の経済状況審査と BAAC の業務能力改善指導
効果的マーケティング・システム構築
南タイ洪水被害農園のリハビリ指導
- ・調査レポートは 1992 年末作成された。